

回 覧

避難所における新型コロナウイルス感染症対策

～避難する場合も注意して～

台風や地震などの自然災害が発生し、避難所を開設した場合には、三つの密（密閉・密集・密接）を避けることが大切です。

避難所でのクラスター発生を防止するため、平時からの準備や災害時の対応などについて、各家庭で考えておきましょう。

【災害に備えて】

① 「家庭内備蓄を進める」

災害発生後の救助や救援物資の到着まで（3日～1週間程度）に、最低限必要なものは準備をしておきましょう。

備蓄品の例：飲料水（1人3ℓ/日）、保存食（アルファ米、乾パン、カップ麺等）、
携帯ラジオ、懐中電灯、充電器、マスク、体温計、消毒液、防寒用品、
携帯トイレ、現金等

② 「必要な情報を収集する」

災害情報の収集は、様々なメディアから収集することができます。

- ・「なりたメール配信サービス」への登録・活用

t-narita@sg-p.jp



多言語での配信

日本語のほか7ヵ言語

【令和3年4月1日開始】

（防災情報、防災行政無線情報、防犯・安全情報、大気に関する情報、消防情報を受信できます）

- ・Lアラートによる情報提供

（市の災害に関する情報を、テレビで確認できるサービスです）

NHK総合テレビ ⇒ dボタン ⇒ 「地域防災情報」

⇒ 「避難情報」（避難指示等の情報及び避難所開設情報）

- ・気象庁「キキクル（危険度分布）」

大雨による災害発生（土砂、浸水、洪水）の危険度の高まりを地図上で確認することができます。



裏面に続く

【避難所に行くかを考えて】

① 「自宅の災害リスクを確認しよう」

自分の住んでいる場所が、災害危険区域に当たるのかを成田市防災マップ (<https://www2.wagmap.jp/narita>) などで事前に確認しておき、災害時に避難が必要なのか知っておきましょう。

② 「親戚や友人の家などへの避難を検討」

避難とは「難」を「避ける」ことで、自宅にいる方が安全な場合、感染リスクを負ってまで避難所へ行く必要はありません。

また、自宅が危険な場合、市指定の避難所への避難だけではなく、まずは安全な場所に住んでいる親戚や友人宅などへの避難について、日頃から検討しましょう。

【避難所での感染症対策】

① 「手洗い・せきエチケットなどの徹底」

避難者や避難所運営スタッフは、断水などの影響がない場合は小まめに手を洗い、せきエチケットなどの感染症対策を徹底しましょう。

② 「避難所における衛生環境の確保」

避難所の物品は、定期的・目に見える汚れがあるときは、家庭用洗剤を用いて清掃することとなっています。衛生環境を保つためご協力をお願いします。

③ 「十分な換気の実施、スペースの確保」

避難所内については、十分な換気と、避難者どうしの十分なスペースを確保することが求められています。通常よりも広いスペースが必要となるためご協力をお願いします。

④ 「発熱、せきなどの症状が出た人のための専用スペースの確保」

発熱、せきなどの症状がある人のスペースは、できるだけ個室にし、専用トイレを設けるなど、一般の避難者とはスペースや動線を分けます。

⑤ 「自分に必要な物の持参」

市の備蓄品には限りがありますので、必要な物はあらかじめ準備しておき、避難する際に持参してください。

避難するときに持っていく物：水、食料、日用品、常備薬、マスク、消毒液、体温計、モバイルバッテリー等